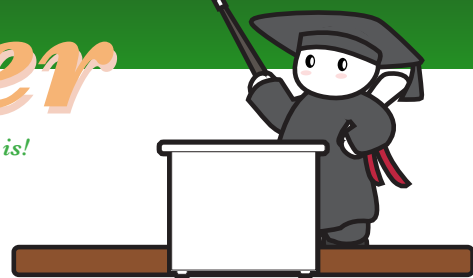




# Newsletter

Professors, we are coming to tell you how useful WebCT is!

No.05



## WebCT 活用事例 (6) : 掲示板のやり取りで学生の成長が見えてくる

### 免疫生物学 (生物圏科学研究科 古澤修一先生)

今回は、WebCTの掲示板(ディスカッション)を利用し、授業時間外の学生の学習時間の確保を実践されている事例を紹介します。

■ WebCTを利用されるようになったきっかけを教えてください。

WebCTを知ったのは、2005年のWebCT100プロジェクト前後だったと思います。

その前から「もみじ」の講義別BBS(掲示板機能)を使っていたのですが、あるとき機能そのものが廃止されると聞いてWebCTに移行しました。「もみじ」のBBSはスレッド機能がなくて少し使いづかったのですが、その点ではWebCTにしてよかったと思います。

■ 掲示板を利用されているのはどういう理由からですか。

以前から私の授業では、授業が終わったら質問しないといけないというルールをつくっていました。授業時間の最後に10分の質問コーナーを設けて、簡単なものでよいので全員に質問してもらおうです。こうすると、学生は緊張感を持って授業を受けると思っていました。実際に授業評価アンケートでも、「質問を考えながら聴講するので、緊張感があってよかった」という意見がありました。

このやりとりをオンラインツールの掲示板を使って行えば、時間の制限をあまり気にすることなくでき、記録も残りますので、これはもう願ったりかなったりだと考えました。

■ 掲示板はどのように運営されているのでしょうか。

掲示板のルールは、「授業終了後1週間以内に、全員が最低1つ、他の人と違う質問をすること」です。こうすると、最初の方で質問する学生はよいのですが、出遅れた学生は他の人の質問を読んで用意していた質問が同じであれば、別の質問をさらに考えなければならぬわけです。大変なだけでなく、実際には、同じ質問はあまりなかったようです。こうすることで、学生は自分が何の疑問も持たず素通りさせてしまったところで

も、他の人の質問を読むことで理解を深化させていったと思います。

最初の方で質問を済ませた場合でも、しっかり最後まで見なさいと指導しています。WebCTの場合は、学生が掲示板に何時間アクセスしたか、何件の投稿を読んだかがわかりますよね。その機能を使って確認すると、ざっと5分の4はちゃんと読んでいるみたいです。

掲示板の参加度は成績評価にも取り入れていて、期末試験：掲示板=80:20の割合にしています。



毎朝掲示板で質問に対応していますが、これが楽しいんですよ。

■ 毎回全員に質問させて、全部答えるのですよね。先生のご負担が大ききくはないですか？

免疫生物学の受講者は30人ちょっとで、1日あたり3~8件の質問が来るのですが、ためちやうと大変なので毎朝掲示板を見るようにしています。「ほー!!そこに疑問を持ったかー!!」とか、見ていると楽しくて時間が短く感じられます。毎朝30分もかけてないですね。

■ 掲示板を利用されることで、どんな効果がありましたか。

先程、学生の授業評価アンケートの学生の回答の話をしましたが、能動的な授業態度になるという効果はあると思っています。時間外のやりとりがあることによって、どこを質問しようかとか絶えず考えながら集中して授業を聞いています。

それから質問の内容が講義が進むにつれて成熟してきます。授業が始まったばかりの頃は、「この言葉の意味が分からない」という質問もありますけど、最後の方では割合に概念的なことを聞いてきます。「どこかの教科書にこんなことが書かれていましたけど…」というようなものも出てきます。やっぱりみんな切磋琢磨するんじゃないですかね。

ほとんどの学生は、他の人がどんな質問をしたのかを見てから、掲示板上の活動を通して復習時間が確保されているというふうに言えるんじゃないかと思っています。これって「単位の実質化」につながりますよね。

私自身について言えば、例えば説明がわかりにくかったところについては、スライドを修正するというように、次の授業へのフィードバックできるという利点がありました。

■ コンテンツ作成支援に何か要望がありましたらお願いします。

WebCTはいいと思ってるし、皆さんにぜひ使ってもらいたいで、普及活動を積極的にしていってほしいと思います。

講義のビデオを15回撮影して欲しいですね。生物生産学部の2つの教室にはWebカメラが設置してあるので、授業を撮影して記録しています。そういうものがあると欠席した学生にも見せてあげられるし、学生サービスとして良いなと思っています。

これはコンテンツ作成支援室に対しての要望ではありませんが、すべての教室にカメラを設置してほしいですね。

■ 参考にさせていただきます。最後にこれからWebCTを利用される方にメッセージがあればお願いします。

他の先生方にもWebCTを使ってもらおうとFDをすると、「ああ、こんなに簡単なんだね」と言われます。つまりそんなにハードルは高くないですよ。それから学生とのコミュニケーションが、教室内だけでなくWebCT上でもできるのは楽しいですよ。

掲示板での質問を義務化することにより、学生が積極的に授業に参加できるようになること、結果として理解が深まってゆくこと、深いコミュニケーションにより授業自身もよくなってゆくことを、楽しそうに語っていただきました。どうもありがとうございました。

(2011年8月10日/古澤研究室にて)





## WebCT に資料掲載するときには、 著作権にも注意しましょう

授業のときに参考図書を一部分コピーして学生に配ったり、Web で見つけた図や写真をパワーポイントのスライドに貼付けて使用することがあると思います。

大学の授業において、必要な範囲で第三者の著作物の一部をコピーして使用することは、一定の条件を満たせば、著作権者の許可なく行えます。このことは著作権法第 35 条の「教育機関における複製等」の例外規定により保証されています。

では、このような資料を WebCT に掲載したい場合はどうなるのでしょうか。残念なことに、上記の例外規定は「授業時間中」に使う場合のことであり、授業時間外にサーバから資料のファイルを学生に配布すると、著作権を侵害していることになってしまいます。

第三者の著作物を含む資料を WebCT に掲載（一般的な Web での公開や講演会での使用もほぼ同様です）するときには、以下の点に注意する必要があります。

1. 利用する資料が「著作物」にあたるかどうか：著作物でなければ、少なくとも著作権法的には問題なく利用できます。
2. 利用する資料は自由に利用できるものかどうか：著作権者が自由に使って良いと宣言していたり、保護期間が過ぎているものは、問題なく利用できます。

3. 引用にあたるか：説明を補強するための部分的な転載は、一定の条件を満たせば「引用」となり、著作権者に断りなく行うことができます。

上記 1. から 3. のいずれにも該当しない場合には、無断で WebCT に掲載することはできません。多くの場合授業の中での利用は可能ですので、授業中に利用した資料を WebCT にアップロードしようとした時点で問題が発生することになります。これを法的に正しく利用するには、元資料の著作権保持者（著作権者）の許諾が必要になります。

著作権者に利用許諾を依頼する際には、利用の形態（履修者の各々が ID とパスワードで認証を受けなければ見られない、など）や条件（何人が閲覧し、公開はいつまで、など）をはっきりさせると良いでしょう。

また、転載した資料がどこから入手されたものかはっきりしないと、このような手続きをすときに手間がかかります。ちょっとしたものでも、転載資料の出所をきちんと記録することを心がけておきましょう。

コンテンツ作成支援室の Web ページでももう少し詳しい説明を挙げておきますので、こちらをご参照ください。

<http://www.els.hiroshima-u.ac.jp/s/copyright/>

また、コンテンツ作成支援室では著作権処理の支援業務も行っております。こちらに関しても、詳しくは上記ページをご参照ください。

この記事は、広島大学図書館機関リポジトリアドバイザー・元九州大学教授 黒澤節男先生に監修していただきました。

【参考文献】 URL はいずれも 2011 年 9 月時点のものです。

・文化庁「学校における教育活動と著作権」

[http://www.bunka.go.jp/chosakuken/hakase/pdf/gakkou\\_chosakuken.pdf](http://www.bunka.go.jp/chosakuken/hakase/pdf/gakkou_chosakuken.pdf)

・文化庁「著作権テキスト」

[http://www.bunka.go.jp/chosakuken/text/pdf/chosaku\\_text\\_110602.pdf](http://www.bunka.go.jp/chosakuken/text/pdf/chosaku_text_110602.pdf)

他人の作った資料（本や論文、新聞記事、Web ページなど）  
を一部転載したものを、WebCT で公開したい。

資料は著作物にあたりますか？

- 思想や感情を創作的に表現したものが著作物
- データや事実をそのまま記したものは著作物ではない

Yes

資料は自由に利用してよいものですか？

- 著作権者が自由に複写・利用して良いと宣言している
- 保護期間を過ぎている
- 法律や判例等権利のないものである

No

引用に該当しますか？

- 引用する必要性がある
- 質量ともに、主従関係が明確
- 引用部分が他と明確に区別できる
- 出所が明示してある

No

No

Yes

Yes

No

該当部分の削除・差替が必要です

公開できます

著作権者の許諾は得られましたか？

利用条件や期間などを明確にして、著作権者に問い合わせます。

Yes

### 教職員向けチュートリアルを配布中



#### はじめての WebCT CE6 第 2 版

隅谷孝洋, 秋元志美, 原田久美, 林雅子, 長登康, 稲垣知宏,

★★★★★ 北川和英 (著) 佐々木由夏 (装丁)

(10 件のカスタマーレビュー)

価格: ¥0 学内便でお届け。詳細

在庫あり。在庫状況について

この商品は、els.hiroshima-u.ac.jp が印刷、発送します。

イメージを拡大

ご注文はお早めに。コンテンツ作成支援室まで。

### 出前講習会やってます



WebCT 出前講習会を実施中です。

WebCT の利用方法をお知りになりたい方、コンテンツ作成の支援依頼を検討されている方、是非お申し込み下さい。参加者 1 名でも出前に伺いますので、お気軽にご利用ください。

お申し込みは、以下の URL より。

<http://www.els.hiroshima-u.ac.jp/s/demae/>



eLS ニュースレター 第 05 号 (2011 年 10 月 1 日)

広島大学 教育室 コンテンツ作成支援室 発行 〒 739-8521 東広島市鏡山 1-7-1

編集: 秋元志美, 原田久美, 隅谷孝洋

<http://www.els.hiroshima-u.ac.jp>

Tel/Fax: 082-424-2465

E-mail: [els-admin@els.hiroshima-u.ac.jp](mailto:els-admin@els.hiroshima-u.ac.jp)